

JA主導による輸出米の生産

みな穂農業協同組合

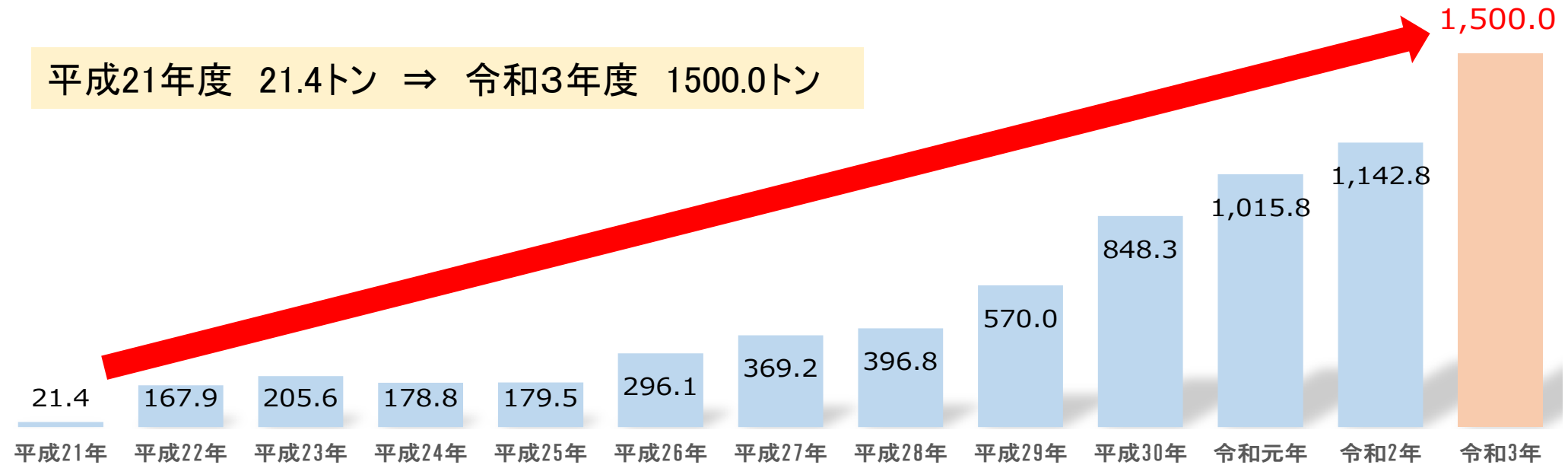
【JAみな穂の概要・取組のきっかけ】

- 富山県東部の入善町・朝日町をエリアとし 管内は、豊富な水資源を持つ約5000haの水田地帯で、主力の農産物は米である。主な水稻生産品種はコシヒカリを中心とし、米卸業者と提携したミルキークイーンなど。
- 担い手への集積・集約が進み、管内耕作面積の約85%を担い手が耕作している。また労働力軽減のためのフレコン出荷が主体となっている。
- 集団転作による不公平感を解消するために町とも連携し、「地域営農とも補償制度」を設け交付金などを公平に分配する仕組みを行う。
- 国内での米の消費量が減少する中、平成20年に米穀卸最大手の(株)神明のグループ会社(株)ウーケが管内にパックご飯工場を建設したことがきっかけとなり、日本食ブームにも着目し(株)神明と提携して平成21年より始めた。
- 水田フル活用を進める中、管内は昔から米生産が中心であり、輸出用米の生産は生産者にとって新たな機械投資が不要であり、負担が少なく安定生産が可能であった。
- 輸出米の品質高位安定化を図るため、JAが運営するライスセンターの再編整備を行い元年産より稼動。

【輸出の取組状況】

輸出量の経過

平成21年度 21.4トン ⇒ 令和3年度 1500.0トン



○主な輸出先 中国、台湾、アメリカ、オーストラリアなど 31か国

○生産者手取りの平準化

非主食用米(輸出用・米粉用・備蓄米)の作付用途は農協で決めるという独自ルールで、用途による不公平感をなくすため、共同計算により一定となるよう調整している。